

1 本校の概要

(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果等

学年	伸びた層			本事例で取り上げた領域				左記以外に取り上げた主な取組
	上位層	中位層	下位層	数と式	図形	関数	資料の活用	
3		○		○	○			生徒対象の実態調査の実施による課題把握と改善策の実践

※ 「伸びた層」は、一番伸びた層に『○』。各層において同じ伸びの場合は、複数の層に『○』。

(2) 伸びた結果の要因、背景

① 学習自体に、肯定的な考え方を持つ土壌がある。

生徒だけでなく、保護者も、学習自体を肯定的にとらえる傾向の強い地域である。全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、通塾率は高い方ではないが、授業において、まじめに誠意を持って参加する態度がみられている。

一方で、自己肯定感が低いことがあり、自信を持てなくなっているという結果も出ていた。授業態度はおとなしく、消極的であるととらえる教員が多い。

② 学校をあげて授業改善に取り組んだ。

本校では、生徒の主体的な学習の在り方を研究し、授業の中で「アクティブ・ラーニング」を意識して実践を重ねた。その中で数学においては多様な考え方を出し合うことで、意欲の向上や、思考力を高めるなどの効果をねらった研究と実践を行った。

③ 指導者を招聘して計画的に研究授業を行った。

数学をはじめ全教科において、外部（教育委員会や他校等）から指導者を招いての授業研究会を行った。教職員の指導に対する意識の向上をねらった。

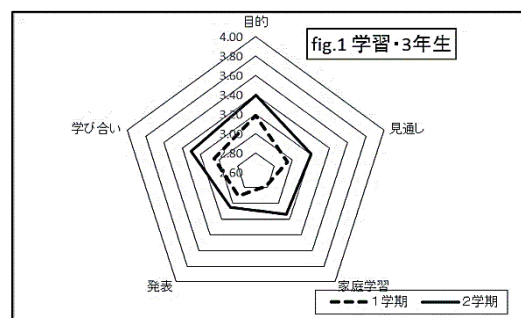
2 具体的な取組

(1) 教育委員会との連携による取組

昨年度と今年度の2年間、白岡市教育委員会からの研究指定を受け、本年度は市内全校の教職員を対象に研究発表を行った。

本校の研究課題として、「言語活動の充実」と「人間関係をはぐくむ指導」から、小集団学習や「アクティブ・ラーニング」を意識した授業を展開した。

埼玉県総合教育センターから指導主事を招聘して、小中合同の研修会を行ったほか、白岡市教育委員会や他校から指導者を招いて研究授業を実践し、学校が一丸となって指導力の向上に注力した。



授業・学習の取り組みについて	
目的	「何のために何を学習するか」目的をもっている
見通し	見通しを立てながら自分なりに工夫している
家庭学習	家庭学習の習慣が身についている
発表	積極的に自分の考えを発表・表現している
学び合い	班やグループで意見を交換しながら学び合っている

(2) 本校独自の取組

昨年の白岡市教育委員会の研究指定を契機に、生徒の実態調査を継続的に実施して、生徒の変化や向上している点、課題等を明らかにするようにした。

fig.1は、今年度1学期と2学期の生徒の意識の違いである。昨年度末の段階では明確な変化が見られなかったものの、本年度2学期になって「発表」や「家庭学習」の伸びが顕著になってきている。

また、質問項目ごとの相関係数も算出して、どういった学習が生徒の意欲向上や自己肯定感の涵養につながっていくかを検討した。

家庭学習の充実を図るために家庭との連携をどう図るかを現在模索中である。

(3) 数学科における取組

自分の考えを他者に伝えたり、互いの考えをもとによりよい考えに高めていったりするために、小グループでの「教え合い・学び合い」の場面を意図的計画的に日々の授業に組み入れている。また、具体物を用いたり、身の回りの問題を数学的に解決したりする等、課題や教具の工夫に取り組んでいる。

授業の最初は本時の目標を確認し、終末には自己評価表を用いて授業で学んだことを自分の言葉でまとめている。

3 成果と課題

(1) 生徒の変容した（伸びた）姿について

- ・教員の意識調査から (fig.2)

生徒の変容について、教職員へのアンケート調査を実施した。右図は学習についての集計結果である。

生徒が自己肯定感を持ち、意欲的になってきていることは生徒の様子から感じているものの、家庭学習の取組や授業への主体的、積極的な関わりという点では、まだまだ伸びしろがあると考えていることがわかる。

- ・保護者の意識調査から (fig.3)

同時に保護者にも継続的なアンケート調査を実施して、意識の変化を見るなどの検討を行った。

結果としては、家庭学習の取組は不十分であるという認識の保護者が多く、生徒や教職員と比べても大変低い評価で向上が見られなかった。

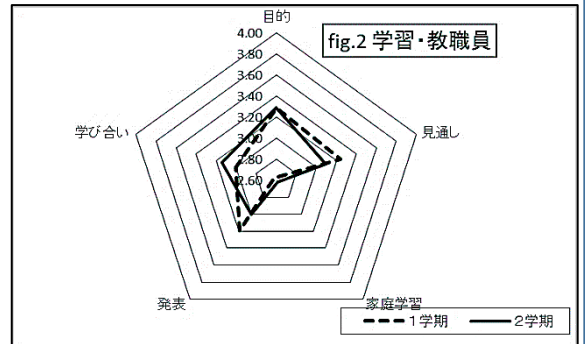
(2) 分析結果を受け、これからの実践に向けての課題

言語活動の充実を図り、豊かな人間関係を築いていくことが、結果として学習意欲をはぐくみ、互いに学び合う学習環境の醸成につながっていく。

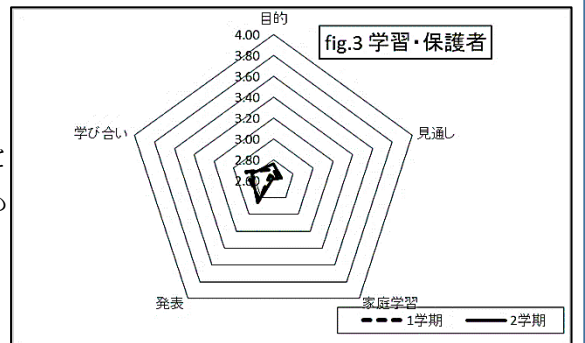
今回の成果を受けて、数年間の研究をさらに継続し、積極的に「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業の実践に取り組む。

また、家庭学習の習慣が、学力の向上に欠かせないことは自明のことであるので、学校と家庭の連携を密にして、家庭学習の充実を図るよう、具体的な取組を全校で行っていきたい。

授業においては、先進的な取組の学校を研究しつつ、生徒の実態を県学力調査の結果分析等からの的確に把握するよう努めて、生徒の実態に合った指導の実践に取り組んでいきたい。



授業・学習の取り組みについて	
目的	「何のために何を学習するか」目的を持たせている
見通し	見通しを立てて学習を進められるよう工夫している
家庭学習	家庭学習の習慣が身についている
発表	積極的に考えを発表・表現するよう促している
学び合い	班やグループでの学び合いを授業に取り入れている



授業・学習の取り組みについて	
目的	「何のために何を学習するか」目的をもっている
見通し	見通しを立てながら自分なりに工夫している
家庭学習	家庭学習の習慣が身についている
発表	積極的に自分の考えやおもいを話してくれる
学び合い	わからないことがあると聞きに来る



第1学年 方程式
ペットボトルのキャップが何個あるか考える



第3学年 相似な図形
相似比が1:2の四角形の面積比を考える